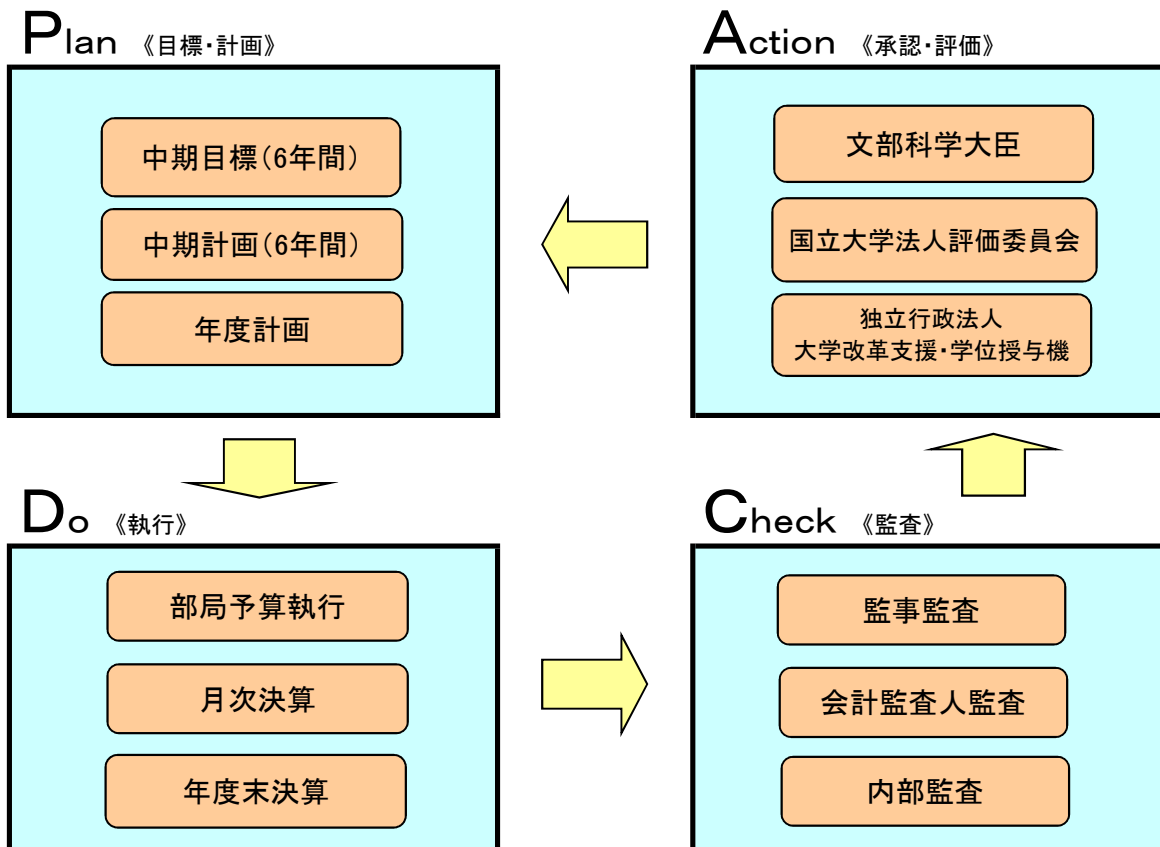


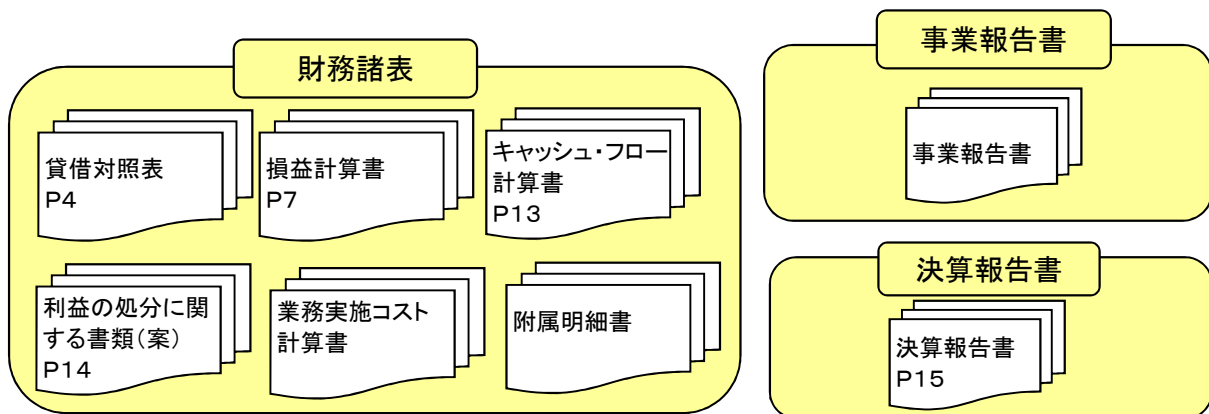
国立大学法人会計のしくみ ①

- 国立大学法人は、大学の基本理念や特性を踏まえた6年間の中期目標を達成するため、具体的に計画した中期計画及び年度計画に基づいて大学運営を行っています。
- 国立大学法人は、国立大学法人会計基準を基に各会計処理を行っており、複式簿記を採用しています。その結果として財政状態や運営状況を明らかにした財務諸表を年度末に作成しています。
- 作成された財務諸表は、事業報告書及び決算報告書を添え、監事並びに会計監査人の監査を受けた後、6月末日までに文部科学大臣へ提出します。
- 文部科学大臣は、提出された財務諸表等の承認を行います。また、中期目標に掲げた目標を達成するための中期計画及び年度計画が遂行されているかを総合的に評価します。



【年度末決算時に必要な提出書類】

毎事業年度終了後、文部科学大臣へ提出する書類は下記のとおりです。



国立大学法人会計は、企業会計とは多少異なる会計処理を行っており、通常の運営を行った場合、損益が均衡する仕組みとなっております。以下で主な特徴を説明します。

1. 受け入れたものは、一度負債として計上される！

受け入れを行った運営費交付金、学生納付金、補助金、寄附金、受託研究費等は、すぐに損益計算書上の「収益」とはなりません。

本学が、国や学生、寄付者の皆様に対して、サービスの提供等、行わなければならない「義務」を負ったということから、貸借対照表上の「負債（流動負債）」として計上します。

(流動負債例：運営費交付金債務、授業料債務、寄附金債務 等)

貸借対照表

資産	負債
《固定資産》	《固定負債》
	《流動負債》
《流動資産》	授業料債務
現金及預金	100
100	純資産

《仕訳例》 現金及預金100 / 授業料債務100

2. 資産を取得したら、流動負債から固定負債へ振り替える！

資産を購入した時には、受け入れ時に流動負債として計上した〇〇債務を、固定負債である資産見返〇〇へ振り替えます。

(固定負債例：資産見返運営費交付金等、資産見返寄附金 等)

貸借対照表

資産	負債
《固定資産》	《固定負債》
工具器具備品	資産見返運営費交付金等
→ 0 → 60	→ 0 → 60
《流動資産》	《流動負債》
現金及預金	授業料債務
← 100 ← 40	← 100 ← 40
	純資産

《仕訳例》 工具器具備品60 / 現金及預金60
 授業料債務60 / 資産見返運営費交付金等60

3. 資産の減価償却や費用の発生に併せて負債の収益化を行う！

固定負債の収益化！

資産取得時において、固定負債に振り替えたもの(資産見返〇〇負債)は、資産価値を減少させる減価償却費と同額を収益勘定(資産見返負債戻入)へ振り替えます。

《仕訳例》 研)減価償却費10 / 減価償却累計額10
 資産見返運営費交付金等10 / 資産見返運営費交付金等戻入10

流動負債の収益化！

流動負債については、費用が発生した相当額を流動負債から収益勘定へ振り替えます。

(収益勘定例：運営費交付金収益、授業料収益、寄附金収益 等)

《仕訳例》 教)消耗品費40 / 現金及預金40
 授業料債務40 / 授業料収益40

貸借対照表

資産	負債
《固定資産》	《固定負債》
工具・器具備品	資産見返運営費交付金等
60	← 60 → 50
減価償却累計額	《流動負債》
→ 0 → ▲10	授業料債務
《流動資産》	← 40 → 0
現金及預金	純資産
← 40 → 0	

損益計算書

費用	収益
《経常費用》	《経常収益》
教育経費	授業料収益
(消耗品費)	→ 0 → 40
→ 0 → 40	資産見返運営費交付金等戻入
研究経費	→ 0 → 10
(減価償却費)	
→ 0 → 10	